

1. まとめ

2019 年 9 月に大型台風が日本列島を駆け抜け、全国各地に大きな被害をもたらしました。協会としてはその都度、全国に広がっているホームホスピスの安否と被害状況の把握に対応いたしました。

昨年度は、福岡県久留米市 (代表・樋口千恵子)、岡山県真備町 (研修中) に大雨の災害が発生しましたし、本年度は千葉県鴨川市のフローラファミリー (代表・川名延江) が 2019 年 9 月に上陸した台風 15 号、19 号で被害を受け、長期の停電にも見舞われました。会員メールなどで呼びかけたところ直接物資支援に動いていただいた葛飾区のは一との家をはじめ、支援の申し出が相次ぎました。

医療的なケアが必要な方々が多く暮らしているホームホスピスでは、停電時の対策は必須であり、発電機や備蓄食料などの準備を周知することも必要です。今後、気候変動や地球温暖化の影響が顕著になり、想定外の甚大な災害も予測されます。と共に、開設時の『家』の決定には、当該地がハザードマップ上安全かなども留意することが求められます。

全国のホームホスピスは、今期末で正会員 42 団体、準備中の準会員 4 団体になり、建物 (家) の軒数では 57 軒、準備中が 2 軒となり年々広がりを見せています。

新規にホームホスピスを開設する時に、まず家が見つかった段階で理事による現地視察、環境確認などを行っています。日本財団のホームホスピス拠点整備事業の申請に際して協会の推薦状が必要で、その点からも、事前に現地へ赴き、民家の持つ空間の改修のあり方も一緒に考えていく道筋が重要だと考えています。

消防法の改正により平成 30 年 3 月 31 日までに、定員の半数が介護度 3 以上の場合 (6 項のロ) は、スプリンクラーの設置が義務付けられました。そこで協会として日本財団に消防設備設置に関する緊急支援プログラムをお願いし、今期までに未設置だった 14 か所のホームホスピスにスプリンクラーが整備されました。また、新規に開設するホームホスピスには、当初からスプリンクラー設置を助言しています。但し、助成金額が 8 割を上限としている為、開設時や改築時には、初期投資の資金等が必要になることなども助言していきました。

また、協会設立以来、事務局には様々な相談が寄せられています。しかし、まだ実際に事務局として現地を把握していないところもあり、新規開設のところも含めて、今期は 32 か所のホームホスピスを訪問視察いたしました。実際に暮らしている人たちの様子や、働いている人たちのご意見なども伺うことができ、課題も見えてより現実的にアドバイスができることに繋がっています。

その中で、まほろば (福島県伊達市) の閉鎖を運営主体の財団法人が検討している段階で、協会として何とか存続の道を探ることに奔走しましたが、ホームホスピスの理念の共有などに課題が残り、開設 1 年での閉鎖となりました。残念なことでした。

主な事業である人材育成研修は、「全国合同研修会」「ホームホスピス実践者育成塾」「支部ごとの研修会」「実践者スキルアップ研修」を実施しました。内容は講師陣の充実や、煉られたテー

マで、ホームホスピス以外の方々にも多く参加いただき、盛況を博しました。(以下の事業報告をご覧ください。)これらの開催にあたり、その地域のホームホスピスに、会場の選定や広報などに尽力していただきました。合同研修会の仙台での開催には、東日本支部の方々が実行委員体制を作り、その活動が支部研修会にと繋がっていきました。伊勢で行われた育成塾では、早朝の伊勢神宮参拝もあり、全国の仲間がつながりました。また、本年度から実施したスキルアップ研修は、協会が研修先までの交通費を負担することで、3か所の団体が参加しました。今後、それぞれの課題解決のための先達の知恵を受け取って現場に活かすことになればと考えます。

本年度もレビュー(評価)を3か所実施しました。ホームホスピスが介護保険制度外事業であることから、組織運営や人員などに規制がかかっていません。だからこそ、ホームホスピスのケアの基準を策定し、それに沿って評価をしながらケアの質の水準を保つ必要があります。評価委員は協会の理事で実施していますが、それぞれが運営などの責任者であることから2名の日程を調整して行いました。自己評価に基づいて、組織運営、ケアの取り組み(スタッフに実際に伺いました)、地域づくりなど、基準に沿って一つ一つ確認していきました。できていないところを指摘するのではなく、どうしたら改善できるかを評価委員もともに考えていくという姿勢です。

「ホームホスピス」が今後の日本の社会にとって関心の高い取り組みとして注目されているからこそ、質の水準の向上に、レビューの実施が重要となっています。来期から「ホームホスピスの基準」を改定し、レビューを受ける側も、実施する側も、もう少し取り組みやすくしていきたいと考えています。

その中で全国のホームホスピスの課題に共通して上がるのが、やはり介護職の不足です。ケアの本質はやはり人です。「ホームホスピス実践者育成塾」は現場のスタッフの研修を大きな目的としているのですが、研修に派遣する余裕がない、シフトが組めないという声を聴きました。介護現場の人手不足は、今後も高齢社会にとって急務の課題であり、ホームホスピスに限ったことではありませんが、いかに人が育ち、介護の仕事に誇りをもって働ける職場を作っていくのか、今後のホームホスピスの広がりに関しての大きな課題になっています。

遠くない将来、配偶者と離別・死別した人を含む独身者が国民の過半を占める「超ソロ社会」が到来するといわれ、今後、独身者が安心して最期を迎えられるのかどうか大きな関心事になっています。特に大都市では「看取り問題」が大きな課題になっており、神戸市で「看取りの家」建設に地域での反対運動がおこり、マスコミで大きく取り上げられました。ホームホスピスという存在が、ひょんなところで脚光を浴びることになり、協会にも連日取材の申し込みが舞い込みました。その時に、ホームホスピスは、あくまで手厚く看取ってあげるための家ではないこと、日々の暮らしの延長上に看取りがあるのですから、最後まで精いっぱい生ききるための「家」だということを主張しました。そして、基本理念である「死を単に1個の生命の終わりとして受け止めず今を生きる人につなぎ、そこに至るまでの過程を共に歩む新たな「看取りの文化」を地域に広げていく」というまちづくりでもあると主張しました。まだまだ「死」をタブー視する家族や周囲の社会であり、孤独死への不安やこれからの道筋の不透明さの中に人々があるからこそその反対運動なのだと思います。だからこそ、自分の暮らしの中での死を肯定していくことが大切であり、ホームホスピスの実践が広がるのが、今後の日本にとって必要なのだと再確認しました。

この様に協会としての役割がますます重要になってきた1年でした。ホームホスピスがより良い形で日本全国の地域に広がっていくために、独自のケアの基準を定め、独自研修を実施し、独

自の評価の仕組みを構築していくことで、全体の発展的向上を目指していきたいと考えます。

① インフォメーション機能

◎定時社員総会

日時：2018年12月1日（土）12：00～12：40

於：APA ホテル TKP 仙台駅北

決議事項：

第1号議案 第4期(2017年10月1日～2018年9月30日)

事業報告書承認の件

第2号議案 第4期(2017年10月1日～2018年9月30日)

決算報告書承認および監査報告の件

第3号議案 役員改選

報告事項 第5期(2018年10月1日～2019年9月30日)事業計画及び予算

◎理事会の開催

第1回理事会 2018年10月13, 14日 場所：ホテルフォレストピア

- ・第5期(2018年10月1日～2019年9月30日) 事業
- ・2019年度ホームホスピス実践リーダー養成プログラム
- ・レビュー
- ・講師謝金内規
- ・みなしホームホスピスに対する協会から日本財団への推薦？
- ・全国合同研修会

第2回理事会 2018年11月30日 場所：APA ホテル TKP 仙台駅北

- ・社員総会
- ・全国代表者会議
- ・ホームホスピス全国合同研修会
- ・レビュー
- ・スプリンクラー設置状況と今後の課題

第3回理事会 2018年12月1日 場所：APA ホテル TKP 仙台駅北

- ・理事長、副理事長選出

第4回理事会 2019年2月13日 場所：明治大学紫紺館

- ・レビュー
- ・2019年度ホームホスピス実践リーダー養成プログラム
- ・日本財団への推薦基準

- ・ホームホスピス実践者育成塾
- ・フォローアップ研修、スキルアップ研修
- ・正会員入会承認

第5回理事会 2019年4月20日 場所：なごみサロン

- ・レビュー
- ・2019年度ホームホスピス実践リーダー養成プログラム
- ・ホームホスピス実践者育成塾
- ・ホームホスピス全国合同研修会 in 広島
- ・支部研修会、支部会議

第6回理事会 2019年6月15日 場所：中野セントラルパークカンファレンスルーム

- ・ホームホスピス全国合同研修会 in 広島
- ・レビュー
- ・中長期計画
- ・役員改選

第7回理事会 2019年9月22日 場所：日本財団

- ・第6期(2019年10月1日～2020年9月30日)事業計画案・予算案
- ・レビュー
- ・日本財団への推薦
- ・ホームホスピス全国合同研修会 in 広島
- ・ホームホスピスデンマークの入会と州政府への推薦
- ・新理事の選任

◎事務局体制

事務局長：黒岩雄二、事務局：岡田瑞穂、岩切知峰（2019年3月～）

理事会記録：古野たづ子

・事務局が本格的に動き始めてから3年目になります。協会の活動と共に、業務も増えてきました。会員の管理、相談対応、情報発信、研修の企画などの運営に関わる業務の他、リーダー養成研修の申請対応、レビューの調整、日本財団への助成金申請の推薦業務など多岐にわたっています。それに伴い、事務局スタッフの増員や外部研修の受講など事務局機能の強化も図ってきました。

【受講研修】

- ・JCNE トラスト&イノベーション・シンポジウム（2019年7月12日）
- ・FRJ2019 第10回ファンドレイジング・日本（2019年9月14日・15日）

◎広報活動

- ・ニュースレターたんぼぼ3号、4号の発行

- ・ホームページの更新（担当：黒岩雄二）
- ・FBにアップ（担当：岡本峰子）

② 人材育成事業

◎全国合同研修会の開催：

第7回ホームホスピス全国合同研修会(宮城県)

開催担当：東日本支部

第1日：2018年12月1日(土) APA ホテル TKP 仙台駅北

テーマ『地域で生きる 地域を変える』

内容：

基調講演 「制度にない制度を考える」

奥田知志（八幡バプテスト教会牧師）

シンポジウム 「地域で生きる 地域を変える」

飯田大輔（(株)恋する豚研究所代表取締役）

田中康博（NPO 法人 Ibasho Japan 副理事長）

立岡学（NPO 法人ワンファミリー理事長）

コメンテーター：奥田知志 コーディネーター：市原美穂

報告 「東日本のホームホスピスのいま」

今野まゆみ（ホームホスピスにじいろのいえ）

にじいろのいえで祖母を看取ったご家族

参加人数 297名

《参加者の感想》

- ・「家族機能の社会化」超高齢社会となった我が国において、重要な課題と思われ、とても考えさせられた。ホームレス支援とホームホスピスは、「制度にない制度」という点では似ていると思った。
- ・「地域で生きる 地域を変える」というテーマにおいて、このシンポジウムの発想は新しいと思った。
- ・介護、福祉とは異なるジャンルでご活躍されている方の話を聴けて良かった。
- ・NPOなどで実際に活躍されている方の話が聞けたことは貴重。制度の中だけで人が最期を迎えるということは正直限界を感じており、制度を利用しつつ様々なサポートの利用や提供が可能になる世の中になれば。
- ・講演を聴いて、時代はどんどん変化していることを実感。益々勉強をしていかなければいけないと気付かされた。
- ・ご家族の話を聴いて、私たちの仕事の意味を感じながら日々を大切にしたいと思った。
- ・若いご遺族からの話は、いのちがつながれていることを実感。
- ・東日本のHHについて具体的に知ることができてよかった。岩手県にもHHができたらいいな。

第2日：2018年12月2日(日) APA ホテルTKP 仙台駅北

内容：

- 記念講演 「いのちの輝きを支える」
鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）
- 記念講演 「在宅医から見た福島の現状と課題」
鈴木信行（鈴木医院院長）
- 教育講演 「人生の最終段階における医療決定プロセスに関するガイドライン」
武田俊彦（前厚生労働省医政局長）
- 教育講演 「本人・家族の意思決定支援」
清水哲郎（岩手保健医療大学学長）

参加人数 339名

《参加者の感想》

- ・念願だった鎌田先生の話が聞けて感動。在宅や緩和ケアを支えるスタッフの息抜きという視点は、後回しにされやすいのですが、一呼吸置くきっかけになった。
- ・鈴木先生のお話は、現実の厳しさを改めて知ることができ、その中で生活している住民・医療者の大変さを知ることができた。福島の現状について気になりながらも、自分から調べたりすることもなく今日まで来てしまっていた。大きな被害を受けた福島にも今後も関心を持ち続けたい。
- ・人生の最後にかかわるものとして、また超高齢多死社会を支えていくものとして、とても大切な話を聴くことができた。
- ・ACPについて詳しく聞くことができ、勉強になった。どうしてもツールを用いてチェック的な方法と考えてしまいがちだが、本人と家族にとってより良いこと、願いや楽しみを大事にしていきたい。
- ・他で聴けない内容で参加して本当に良かった。

◎各支部活動

(1) 研修会

- ・西日本支部研修会

2018年11月23日(金) ラッセホール（兵庫県神戸市）

テーマ『ホームホスピスと緩和ケア』

内容 「ホームホスピスの広がり」 市原美穂

「今どきのホスピス・緩和ケア」 新城拓也（しんじょう医院院長）

「死に逝く人は何を想うのか」 佐藤由美子（米国認定音楽療法士）

鼎談 「ホームホスピスと緩和ケア」

新城拓也 佐藤由美子 松本京子

参加人数 193名

- ・東日本支部研修会

2019年7月20日(土) 福島看護専門学校(福島県福島市)

テーマ『ホームホスピスと地域の力』

内容 「ホームホスピスとは」 市原美穂

「生活の輪を地域で」 鈴木典夫（福島大学行政政策学類教授）

「生活の中で死とは」 鈴木信行（鈴木医院院長）

パネルディスカッション「地域と共にあるホームホスピス」

鈴木典夫 鈴木信行 市原美穂 茂木いずみ（結びの家くるみ）

参加人数 143名

・九州支部研修会

2019年9月7日（土） 熊本保健科学大学（熊本県熊本市）

テーマ『百まで生きる覚悟～身じまいの作法』

講演 「百まで生きる覚悟」春日キスヨ（臨床社会学者）

鼎談 春日キスヨ 市原美穂 竹熊千晶

参加人数 100名

（2）支部代表者会議

なし

◎日本財団ホームホスピスリーダー養成プログラムの研修実施

2018年度

- ・片岡奈津子（岡山県倉敷市）・神戸なごみの家
- ・白谷美和（福岡県糸島市）・かあさんの家
- ・鎌瀬友理（熊本県熊本市）・われもこう

2019年度

- ・今村順子（兵庫県姫路市）・神戸なごみの家
- ・松尾春花（東京都文京区）・神戸なごみの家

合計 5名

前期より、希望者の書類選考をあらかじめ理事会で行い、面接によって研修の可否や研修先も決める方法に変更してきた。それに加えて、今期から研修途中で他のホームホスピスでの短期研修も必須として取り入れてきた。

それによって、研修生は様々な環境での研修を受けることができ、課題も見え内容も深まったと思われる。今後更に研修期間や時期などを検証して体系的に取り組んでいきたい。また、今後更に研修の中身を充実させるために各研修機関の指導者にも情報の共有化を図っていきたい。

◎ホームホスピス実践者育成塾

・総論① ホームホスピスの理念・環境

期日：2019年6月15日

会場：明治大学中野キャンパス（東京都中野区）

内容：

- ・ホームホスピスとは何か
市原美穂（協会代表理事）
- ・ホスピスとは何か
林章敏（聖路加国際病院緩和ケア科部長）

- ・老いの住まい「ケア論」再考
高橋紘士（協会理事・東京通信大学教授）
- ・どうやって人を育てていくか～ケアチームのマネジメント～
竹熊カツマタ麻子（筑波大学医学医療系国際看護学科教授）

・総論② ホームホスピスの組織づくり・運営

期日：2019年6月16日

会場：明治大学中野キャンパス（東京都港区）

内容：

- ・モーニングギャザリング
- ・日本財団より事業説明
吉倉 和宏（日本財団常務理事）
- ・「住まい」づくりの進め方
吉川みゆき（みゆき設計事務所代表）
- ・ホームホスピスという空間の課題
園田真理子（協会理事・明治大学理工学部建築学科教授）
- ・働き方をデザインする～労務管理の立場から～
高浪賢一（高浪社会保険労務士事務所代表）
- ・ホームホスピスの組織と運営について
黒岩雄二（協会事務局長）

参加人数 82名

《参加者の感想》

- ・理念を再確認、「ホスピスとは気づかいあう共同体である」という言葉に出会えて感動。
- ・「家」を見つけていくうえでの法律の縛りは大変わかりやすく勉強になった。
- ・組織として最低限おさえなければならないことが整理できた。
- ・環境は家に魂があり、ここにいてもいい、他の方に認められているということから始まり、空間や間がとても大事であることを学んだ。人を育てていくには、きちんと仲間を知り、互いに理解することが利用者様のためになるのだと思った。法律や労務管理なども学ぶことができ良い機会となった。
- ・全国にこんなに仲間がいることが分かり、心強い。
- ・ホームホスピスの理念は、私自身が今まで目指してきた理念にとってもあったものだと改めて実感。
- ・「住まい」づくりの進め方を聞いて、ホームホスピス実現のハードルが高くなったが、できることから取り組みたい。
- ・全国の方々とは直接話ができ、元気をいただいた。

・各論① ホームホスピスのチームケア

期日：2019年7月8日

会場：神宮会館（三重県伊勢市）

内容：

- ・生活を分断しない医療
遠藤太久郎（いせ在宅医療クリニック院長）
- ・足元からバランスを良くして、健康寿命を延ばす
佐々木克則（フット&ボディバランスアジャストメント機構代表理事）
- ・うんこのケア
榎原千秋（おまかせうんちッチ代表）

・各論② 日々の生活ケア

期日：2019年7月9日

会場：神宮会館（三重県伊勢市）

内容：

- ・暮らしを整えるケア～看護と介護の連携～
松本京子（協会副理事長・神戸なごみの家理事長）
- ・看取りまでの意思決定支援
宇都宮宏子（在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス代表）
- ・最後まで食べるための口腔ケア
坂井謙介（坂井歯科医院院長）
- ・食と栄養支援
奥村圭子（杉浦医院地域ケアステーションはらぺこスパイス室長）

・各論③ ワークショップ

期日：2019年7月10日

会場：神宮会館（三重県伊勢市）

内容：課題と解決方法の共有

講師：奥村玄（GENプランニング代表、総務省地域づくりアドバイザー）

参加人数 62名

《参加者の感想》

- ・利用者様のケアを行うためには多くの人たちが連携することの大切さを改めて感じた。
- ・遠藤先生の話に共感できる部分がとても多く、医師の立場など勉強になった。うんこのケアと看取りまでの意思決定支援は、見入って聞かせていただいた。自分の職場でもうんこのケアに力を入れていきたい。毎日の中で食べること、出すことがきちんとできていると、よい睡眠もとれるようになると思う。
- ・生きることを叶えるためには本人の意思決定支援が重要だと学べてよかった。
「共に生きて生きづらさを考えている方に持っている力を発揮できるお手伝い」頑張って実践したい。
- ・ワークショップがチームで課題へ挑戦することで絆ができてよかった。

◎ フォローアップ研修（在宅ホスピス実践リーダー養成プログラム未受講団体対象）

ホームホスピス事業を開設するには、原則として「在宅ホスピス実践リーダー養成研修（以下、リーダー研修）」を履修している必要がありますが、現実にはリーダー研修を受けずに事業所を開設しているホームホスピスもあります。そのような事業所の運営者と実践のリーダー的立場にある人が1～2年かけて研修の単位を取得していただく「フォローアップ研修」という仕組みを設けました。

その内容は、1～2年間で100単位以上の獲得が必須（実習のみ、実習＋座学…選択可）

実習…認定ホームホスピス（6項に掲載）にて現場実習 1日8時間の実習＝10単位

座学…育成塾及び全国合同研修会への参加 1日研修の場合10単位

（例）育成塾5日間＋実習5日＝100単位

現在、フォローアップ研修を修了（100単位取得）もしくは実施中のホームホスピスは次の3団体です。

【第5期修了】2団体 晴れる家、ほしぞら

【実施中】1団体 てんき

◎ 実践者スキルアップ研修

リーダー養成研修を履修したスタッフがいないホームホスピスからスタッフのスキルアップのための研修制度を作って欲しいとの要望が上がり、今期からの取組として、実践者スキルアップ研修を開始した。これは、ケアを担っているスタッフが希望する他のホームホスピス（現在は下記の5カ所が受入機関）において2日～2週間程度、働きながら学ぶものである。

【受入機関】

ホームホスピス宮崎かあさんの家

ホームホスピス神戸なごみの家

ホームホスピス愛逢の家

ホームホスピスたんがくの家

ホームホスピスわれもこう

ホームホスピスひなたの家

【これまでの研修団体及び内容】

2019年7/24, 25 フローラファミリー（事務研修）協会事務局

2019年9/3～5 晴れる家（現場研修）かあさんの家

2019年9/9～11 われもこう（事務研修）協会事務局

③ 評価レビュー

☆レビュー（認定審査）の実施

2018年12月18日 心音

2019年1月10日 は一との家

2019年8月29日 まろんの家（再レビュー）

*評価審査委員：高橋紘士、市原美穂、松本京子、樋口千恵子、竹熊千晶、金居久美子

☆現地指導・視察及び相談支援

【開設前現地指導】

- 10/10 もくれんの家
- 2/5、8/4 NPO 法人はなみずき

【拠点整備前視察】

- 8/4 栃木かあさんの家

【相談支援】

- 10/26 にじいろのいえ
- 10/27 もりの家・ほしぞら
- 11/15 里の家・櫟
- 12/16 ゆずの家
- 12/17 風の葉・宝塚つ・む・ぐの家
- 12/18 心音・愛逢
- 1/10 日南かあさんの家
- 1/20 晴れる家・は一との家
- 2/21 わこの家・ちえろっと・ほのぼの
- 3/15 われもこう
- 3/16 もくれんの家（開設記念講演）
- 3/20 おけたん宇佐・たんがく
- 3/24 咲夢笑・そらい・ひなたの家・癒居
- 4/21 神戸なごみの家夢野
- 6/3、7/3、20、8/4 仁泉会
- 6/ 8 ほしぞら
- 6/18, 19 にじいろのいえ
- 7/14 安庵
- 7/15 日南かあさんの家
- 7/21 かぞくのいえ、結びの家くるみ
- 8/23, 24 徳島とも暮らしの家ふくい（開設記念講演）

その他、電話・メールによる相談支援多数

④ 調査・研究

(1) ホームホスピスの環境と住まいに関する研究を予定していたが、予算を使つての会議はなかった。

(2) ハワイ視察

2019年3月3日～4日(渡航期間は日本時間の3月2日～6日)

日本財団の在宅ホスピス調査に随行し、ハワイにおいて日本のホームホスピスと同様の事業を行っている「なごみフォスターホーム」をはじめ、ケアホーム、ホスピスホーム、ナーシングホーム、ホスピスケアセンター、長期介護施設について、日本との共通点や相違点および学ぶべき点や課題を調査し、日本におけるホームホスピス活動を充実させるためのヒントを得ることを目的として実施した。

① なごみホーム／アイナハイナケアホーム

日時:2019年3月3日 15時30分～18時

応対者:三浦佳代子さん

② Hospice Hawaii-Kailua(ホスピスハワイ・カイルアホーム)

日時:2019年3月4日 9時～10時

応対者:Shawnさん(男性、看護師・管理者)／浜本京子さん(チャプレン)

③ Aloha Nursing Rehab Centre(アロハナーシングリハビリセンター)

日時:2019年3月4日 10時30分～11時30分

応対者:Darrin Schadelさん(男性 管理者)

④ St. Francis Hospice(セントフランシスホスピス)

日時:2019年3月4日 13時～14時30分

応対者:Tariq Al Mutawaさん(医師 CMO)

⑤ Arcadia- Independent living, Assisted living, and long term

日時:2019年3月4日 15時30分～16時30分

応対者:Ann Navarroさん(Director of Sales)

ケアホームの定員が5名ということが制度で定められていることに感銘を受けた。民家を利用した個別ケアの仕組みであることもホームホスピスと似ているが、私たちが経験的にたどり着いた5名という人数は、米国では制度として検証された数字であることに納得をした。また、保健制度の大きな違いにより、全体的に生活を最後まで支えるケア(介護)が見えなかった(なごみホームを除く)。米国の在宅ホスピスケアにおいて、在宅で過ごすこと、在宅で亡くなることは日本よりも難しいという印象を受けた。

今回の視察でハワイ(米国)のホスピスケア、高齢者ケアなどの実態を知ることができ、誰でも利用できるホームホスピス、最期まで自分らしく過ごすことのできるホームホスピスの意義を再確認することができた。

そのようなホームホスピスが、日本には現在54カ所に広がっていることを改めて重く受け止めると同時に、ますますその質を高め広げていく努力をしなければならないという想いを新たにした。

(3) 台湾視察

2019年9月23日～27日

台湾の人口構造の現状台湾の人口は23,539,816人、

高齢者扶養率(65歳以上の高齢者人口(老年人口)が15-64歳人口(生産年齢人口)に占める割合):17.96%(2016年12月末統計) 出生数は年間170,000人とどまっている。近い将来介護問題と社会を担う年齢層の減少により介護問題や看取りは社会の課題である。

今回の視察は、台湾において在宅医療体制の構築とホームホスピスに関心を持ち、数年前から日本の在宅医療や介護システムの視察を重ねてこられた台湾在宅医療学会の余 尚儒医師と奥様五十嵐由紀子さんの尽力により実現した。

9月23日台東登蘭村へ

村では地域住民の家に宿泊

9月24日台東泰源村（無医村）巡回診療、訪問診療に同行 登蘭村での市民との交流会

市原理事長と松本よりホームホスピスについてのプレゼンテーション

9月25日好家宅共生文化教育基金会理事との交流会

9月26日康健雑誌主催シンポジウムに市原美穂登壇

立法院（日本の国会議事堂に当たる）において国会議員と一般に公開された参加者に市原美穂、松本京子プレゼンテーションを行い質疑応答を受けた

9月26日大溪の古い町並みでまちづくりの取り組みを視察

古民家において地方創生に取り組む若い人たちにプレゼンテーションを行って意見交換した。

⑤ その他の事業

(1) 学会及び他団体からの講演・発表依頼が増え、協会理事のみならずホームホスピス運営事業者による講演、発表の報告を受けるようになってきた。

協会理事、(にじいろのいえ) 今野まゆみ、堤健太、(樫) 嶋崎叔子、(癒居) 落合利香 他

(2) 日本財団への推薦

【新規開設】

徳島ともぐらしの家ふくい

【拠点整備】

ひとり暮らしから、とも暮らし安庵・にじいろのいえ

(3) 開設

2019年4月 もくれんの家（鹿児島県日置市）

2019年8月 徳島ともぐらしの家ふくい（徳島県）

(4) 災害支援

千葉県鴨川市のフローラファミリー（代表 川名延江さん）が2019年9月に上陸した台風15号、19号で被害を受け、長期の停電にも見舞われた。会員メールなどで呼びかけたところ直接物資支援に動いていただいた葛飾区の「はーとの家（代表 木戸恵子さん）」をはじめ支援の申し出が相次いだ。